

東京外国語大学国際日本研究センター主催
夏季公開セミナー 2013

言語・文学・歴史

— 国際日本研究の試み —

2013年7月31日(水)~8月2日(金) 10:00~16:00

(8月1日~14:15まで)

会場：東京外国語大学府中キャンパス
アオラグローバル3階プロジェクトルーム

(国内外の大学院生発表会場)
留学生日本語教育
センター103室、107室

「国内外の大学院生による研究発表会」

7月31日：16:15~19:30、8月1日：14:45~17:00
会場：留学生日本語教育センター103室、107室

- ◆ JR中央線「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分（JR新宿駅から約40分）
- ◆ 京王電鉄「飛田給」駅北口より
多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車



東京外国語大学国際日本研究センターは、アジアを中心に活躍している研究者を講師にお招きし、日本語・日本学が世界でどのように研究されているのか、学内で直接学べる機会を提供しています。第2回を迎える今回は、海外から講師とともに大学院生を招聘し、研究発表を通して国内外の院生同士が交流できる場を設ける試みを行います。言語・文化・歴史・文学・教育などの分野において各国・各地域で進展している日本研究の現在に触れてみませんか。どうぞ奮ってご参加ください。

Program

時間	7月31日(水) = 文学 =	8月1日(木) = 言語 =	8月2日(金) = 歴史 =
10:00 } 11:30	金鍾徳氏 [韓国外国語大学] [仮名文字とハングルの発明と女流文学]	趙華敏氏 [北京大学外国語学院] [認知と言語の使用について]	野本京子氏 [東京外国語大学] [日本の近代化と「農本主義」]
12:45 } 14:15	川口健一氏 [東京外国語大学] [「伝奇漫録」と「伽婢子」] —「剪燈新話」受容をめぐる越日比較—	徐一平氏 [北京外国語大学] [日本語の多義形容詞の意味記述及び意味存在条件について—コーパスの視点から—]	橋本雄一氏 [東京外国語大学] [「眼線の地下室と都市—近代植民地ハルビンは文芸にどう関心を持たれたか—]
14:30 } 16:00	陳明姿氏 [国立台湾大学] [「人間を助ける鬼」類型説話について—「今昔物語集」と中国の古代小説を中心として—]	(14:45~) 国内外の大学院生による研究発表会 (留学生日本語教育センター103室、107室) (~17:00)	于乃明氏 [台湾・国立政治大学] [小田切万寿之助と中国]
16:15 } 19:30	国内外の大学院生による研究発表会 (留学生日本語教育センター103室、107室)	立食パーティ (17:30-19:30 アオラグローバル1Fカフェ)	ジャーナル国際編集顧問会議

《お問い合わせ》東京外国語大学 国際日本研究センター

[電話] 042-330-5794 [メール] info-icjs@tufs.ac.jp [URL] http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/

<タイトルと概要>

7月31日(水)

10:00—11:30 仮名文字とハングルの発明と女流文学

金鍾徳氏(韓国外国語大学日本語学教授)

日韓両国民が世界有数の記録好きな民族であることは固有文字の発明と関わりがあるといえよう。両国は漢字文化圏でありながら漢文では表現できない歌謡などを、韓国では新羅時代に吏読を、日本では奈良時代に万葉仮名を発明し、漢字を利用した表記法を工夫して書き表した。ところが、仮名文字とハングル文字が発明されると両国とも最初は女流作家による日記や随筆などの宮廷文学が創作される。特に平安時代の仮名文字はハングルより五世紀も早かっただけに多数の女流文学が創作されている。このセミナーでは固有文字の発明と韓日両国の宮廷女流文学を比較しながら新しい光をあててみたいと思う。

12:45—14:15 『伝奇漫録』と『伽婢子』—『剪燈新話』受容をめぐる越日比較—

川口健一氏(東京外国語大学名誉教授)

中国明代の伝奇短編集『剪燈新話』(瞿佑、14世紀)は、ベトナムを含む東アジア漢文文学圏に影響を与えた。ベトナム漢文伝奇物語の傑作とされる『伝奇漫録』(阮嶼、16世紀)はその具体例である。また江戸日本では『伽婢子』(浅井了意、17世紀)において原作のほとんどがすぐれた翻案ものとなって特色ある物語展開をみせた。今回は『剪燈新話』受容をめぐる若干の越日比較を試みてみたい。

14:30—16:00 「人間を助ける鬼」類型説話について—『今昔物語集』と中国の古代小説を中心として—

陳明姿氏(国立台湾大学日本語学専任教授)

中国の六朝や唐代の小説の中には様々な鬼のキャラクターが登場する。中には「人間を助ける鬼」も見られる。但し、鬼も理由や条件もなく人間を助けるということはない。そのため、六朝小説や唐代小説に登場するこういう類型の鬼も大変バラエティに富んでいて、興味をそそる存在である。そして、こういう類型の説話は、日中両国が頻りに交流していたもど日本にも伝わり、日本の説話文学に影響を及ぼした。本発表は『今昔物語集』の「人間を助ける鬼」と六朝小説の「人間を助ける鬼」の類型の説話に焦点をあて、両者の関連と異同を考察しようとする試みである。キーワード：賄賂、道徳、恩義、仏教、人情味

16:15—19:15 【国内外における大学院生の研究発表会】【言語】留学生日本語教育センター 103 室

片山 晴一 東京外国語大学大学院博士後期課程 「日本語における移動手段の表現—中国語との対照から—」	張志凌 東京外国語大学大学院博士後期課程 「複合動詞「～こむ」の副詞的意味について」	朱炫妹 筑波大学大学院博士後期課程 「日本語受表現と韓国語受動詞の体系に関する対照研究—韓国並列コーパスを用いて」
孫 斐 北京大学大学院 博士後期課程 「日本語のテレルと中国語の「让例」——説明文における無標物が主語の場合を中心に」	孟会君 北京外国語大学 日本語学専攻博士後期課程 「日本語におけるサ変複合動詞二重ヲ格構文について」	

16:15—19:15 【国内外における大学院生の研究発表会】【文学】留学生日本語教育センター 107 室

藤井嘉章 東京外国語大学大学院博士前期課程 「白居易の注釈における俗言」	李智賢 韓国外国語大学大学院修士 「源氏物語」における「梅」のイメージ」	徐廷璋 国立台湾大学大学院博士前期課程 「『国性爺合戦』『国性爺後日合戦』に見る近松の父親像」
張 芸 東京外国語大学大学院博士前期課程 「文学作品解説における権威への挑戦——夏目漱石と意識共同体」	陳 璿 東京外国語大学大学院博士前期課程 「北村透谷試論——琴と自然をめぐる」	南徳貞 東京外国語大学大学院博士後期課程 「1970年代の日韓文学の諸相—大江健三郎と李清俊」

8月1日(木)

10:00—11:30 認知と言語の使用について

趙華敏氏(北京外国語大学外国語学院副院長教授)

認知と言語とが密接に関係している。認知言語学の立場から言語を記述し、分析する方法は違う言語間の相違点と共通点を発見するのに新しい道を切り開いた。違う環境は人間の言語使用にどのような影響を及ぼしているのか、大変興味深い問題である。その実際を記述・解釈するのがわれわれ研究者の役目であり、そしてその研究成果を日本語教育の実際へ適用することは日本語教育関係者に課された大きな課題の一つである。本発表は認知の差異によって、中国語人と日本語人が使用する日本語に現れた違いを例に、認知が言語使用に与える影響を観察し、中国語人が日本語を運用する際の指導法を探ってみよう。

12:45—14:15 日本語の多義形容詞の意味記述及び意味存在条件について—コーパスの視点から— 徐一平氏(北京外国語大学北京日本学研究中心長)

「言語研究の究極の目標は意味である。」自然言語においては、多義語の存在はありふれた現象であり、多義語の意味に関する研究も重要な課題とされている。特に、認知言語学の発展とともに、いままでも重要視されていなかった多義語の意味研究が、一躍注目が集まった。特にコーパスの応用によって、細かい意味記述とコロケーションの確認も可能になった。日本語の多義形容詞「甘い」について分析する。本発表は共時的な観点から、大規模なコーパスを活用することによって、連語論、文法論、それに認知意味論などの理論に依拠して、多義語の意味を包括的かつ体系的に記述し、さらに個々の語義の存在条件まで詳しく検討し、多義語の意味研究に実際の言語使用に基づくボトムアップ的な研究方法の提案を試みる。

14:45—17:00 【国内外における大学院生の研究発表会】【言語】留学生日本語教育センター 103 室

ツォイ・エカテリーナ 東京外国語大学大学院博士後期課程 「現代の茶席の会話におけるボラリティネス研究」	崔英才 東京外国語大学大学院研究生 (千葉大学大学院博士前期課程修了) 「電話問い合わせの談話の展開—全体構造と情報部の談話進行—」	申鉉珍 韓国外国語大学大学院 「否定を表す副詞のあり方—マサカの「使用場面」を中心に—」	李国玲 筑波大学大学院博士後期課程 「日中「不満表明行為」に関する対照研究—「行動の仕方」を形づくる諸要素について—」
--	--	---	--

14:45—17:00 【国内外における大学院生の研究発表会】【歴史・社会】留学生日本語教育センター 107 室

臼井直也 東京外国語大学大学院博士後期課程 「海外における日本アニメ受容の通時的分析の基礎研究—大藤信郎作品が近年のアニメ人気に与えた影響に関する一考察—」	簡孝軒 国立政治大学大学院修士課程 「日本アニメにみる理想の家族像—「サザエさん」を例に—」	飯倉江里衣 東京外国語大学大学院博士後期課程 「日本の植民地支配下における朝鮮人の軍事的敵対関係—「満洲」抗日バルチザン／満洲国軍の朝鮮人を中心に—」	許文英 東京外国語大学大学院博士前期課程 「徳島藩須賀重春の隠居政治—公家との姻戚関係を通して—」
---	---	--	--

8月2日(金)

10:00—11:30 日本の近代化と「農本主義」

野本京子氏(東京外国語大学教授)

「農本主義」とは何か。どのような時代状況のなかで立ち現われ、どのような問題を提起しようとしたのか。セミナーでは、時代のなかでの「農本主義」の主張をとりあげるだけでなく、研究史を検証することによって、現代までを射程にいれて考えてみたい。その際に、かつては歴史研究のなかで否定的に扱われていた「家」や「ムラ」が、開発論的視点から肯定的に論じられるに至った近年の研究動向を合わせて検討する。「家・ムラ」論の変化は、「農本主義」研究の変化とも関わっていると考えるからである。この「農本主義」そして「家」「ムラ」に対する評価の推移・変容は、近代そして現代の農業・農村の社会的地位と密接不可分であることを論じる予定である。

12:45—14:15 眼鏡の地下室と都市—近代植民地ハルピンは文芸にどう関心を持たれたか

橋本雄一氏(東京外国語大学准教授)

清朝・帝政ロシアから帝国日本へ近代都市建設の道を歩んだ中国の北方都市、ハルピン。鉄道という植民地インフラやロシア革命といった「世界の交流と起点」をめぐる、人と時間の恩恵・葛藤が反復される場でもあった。このハルピンを自分の身体角度から表現しようとした文芸作品を、1930-1940年代の中国人作家を中心に取り上げたい。植民地の夜と昼、場所への下降感覚、に関心を持った作家の視線の動き、都市空間のとりえ方から、何が見えてくるのか考える。

14:30—16:00 小田切万寿之助と中国

于乃明氏(国立政治大学日本語学専任教授兼外国語学専任教授)

小田切万寿之助(旧東京外国語学校=現東京外国語大学出身)は、近代中日関係史において、もっとも重要な人物の一人である。中国語と英語に堪能であったこともあり、小田切は、特に外交官として日清戦争後の戦後処理や日清通商航海条約の改定及び東南互保条約の締結に尽力を注ぐだけでなく、横浜正金銀行取締役、日本銀行団代表として、日露戦争後の対華借款や国際会議においても大きな役割を果たした。近代中日史のより深い理解のためには、小田切に関する学術的研究・調査が必要不可欠であるが、これまでの近代中日史においてはほとんど行われてこなかった。そこで、本講義では、小田切についての貴重な研究・調査の成果を紹介する。